

阪急沿線 ちよい駅 散歩

17 駅目

いけだ

池田
IKEDA

← かわにし のせぐち
KAWANISHI-NOSEGUCHI
いしばし
ISHIBASHI →

阪急電鉄の創業者・小林一三(逸翁)が居を構えたのは、池田・五月山山麓。この地を愛した彼は、美術館建設の夢を温めていた。その夢はかなわず逝去したが、没後に建てられた美術館が移転オープンする。駅からちよいと足をのばして、逸翁の夢と足跡を追ってみよう。



池田駅 住所 / 池田市栄町
設置 / 1910年3月10日

約半世紀の時を経て 逸翁の夢、花開く



閑静な住宅街に引き締まった姿を見せる美術館。南隣は池田文庫。

逸翁美術館

逸翁が描いた芸術空間が、装い新たに誕生

芸術に造詣の深かった逸翁は、設計図や土地を用意して美術館建設を計画したが、実現しないまま1957年に逝去。52年の歳月を経て、逸翁自邸にあった美術館が、この度その地に移転開館する。逸翁遺愛の美術品と向き合える展示室のほか、茶室やタカラジェンヌによる音楽コンサートなども開催される多目的のホールも併設。逸翁の夢であった、気軽に芸術に親しめる拠点の誕生だ。

●10月4日開館(企画展「茶人 逸翁」の詳細は、右ページを参照)。
●一般1,000円、大高生600円、中学生以下無料 / 10:00~17:00(入館は~16:30) / 月曜休(祝日の場合は開館、翌日休) / ☎072-751-3865



誰もがアツと驚いた、茶人・逸翁のひらめき

小林一三翁は事業家でありながら、「逸翁」という雅号を持つ茶人でもあった。茶道具に西洋のガラス食器を取り入れたり、椅子席で楽しむ「即庵」という茶室を作ったりと、既成概念にとられない自由な発想が逸翁らしい。展覧会では、茶碗に付けられた洒落な銘にも注目。



池田市五月山動物園

5頭のウォンバットがお出迎え

1957年に開園した日本一小さな動物園。ワラビー、エミューなどがいる中、来園者のお目当ては、オーストラリアの珍獣・ウォンバット。コアラと同じ有袋類で、ずんぐりした体とつぶらな瞳がとってもキュート! 池田市ではマスコットの存在で、バス停や郵便ポストの上など至るところで愛嬌を振りまいている。飼育員さんのイチオシポイントは「のんびり屋に見えるけれど、実は時速40キロぐらいで走れるぐらい運動神経がいいところ」だそう。昼間は巣穴の中で眠っていることが多いので、開園直後夕方がおすすめ。

●入園無料 / 9:15~16:45 / 火曜休(祝日の場合は開園、翌日休) / ☎072-752-7082(池田市緑のセンター)

阪急関係の資料がズラリ TOKKの歴史も丸分かり

宝塚歌劇や阪急関係の資料を所蔵する池田文庫では、我がTOKKの歴史もひととける。その源流は1954年11月発行の「HOT」。1972年に「阪急TOKKライフ」となり、以後37年間お出かけ情報を伝え続けてきた。ページを彩る往年のスターやレトロな広告が興味深い。

池田文庫

●入館無料 / 9:30~17:00 / 祝日、月曜・第1水曜休(祝日の場合は開館、翌日休) / ☎072-751-3185

